

有形文化財【建造物】
有形民俗文化財
※二重指定

あか め み や と り お ん
赤イロ目宮鳥御嶽

指定年月日／1991(平成3)年11月13日
所在地／川平680-1



この御嶽はアーラオンとも呼ばれ、群星御嶽・山川御嶽・浜崎御嶽と並んで川平四嶽の一つに数えられている。琉球王国時代、川平村では牛馬による農作物の被害を避けるため、農作物保護役の野夫佐や馬夫佐に監視させ、その結果を神司が毎月石垣村の宮鳥御嶽へ行き、同御嶽の神司を通じて神に報告する習わしだった。しかし、宮鳥御嶽の神司がその繁雑さに同情し、宮鳥御嶽へのお通しとしてアーラオンが創建されたと伝えられている。

境内に建つ拝殿は、1937(昭和12)年に建てられた本瓦葺木造平屋の建物で、右側に祭壇が設けられ、「沐蔭」の扁額が掛けられている。豊年祭では、境内に祀られているビッチュル(カーラ石)と呼ばれる俵形の石を担いで境内をまわる独特の儀式がある。

この御嶽は、川平の年中行事には欠かせない場所で、川平のみならず八重山の民間信仰や伝統的な木造建築様式を知るうえで重要である。

市指定

有形文化財【建造物】

あか ん ま し ゆー はか
赤馬主の墓

指定年月日／2012(平成24)年12月20日
所在地／宮良1131-41



赤馬主の墓は、字宮良ナーバカ原の標高約40mの緩斜面に位置する。17世紀後半の築造とされ、墓は横穴式の墓室部と石垣で囲まれた庭部からなる。墓室は、露頭した礫岩の岩盤に方形状の横穴を掘り込んだ独特の形状で、墓口は大小6個の整形された岩石で塞がれている。庭部は琉球石灰岩の野面積みでほぼ方形状に囲われ、正面に入口が設けられている。

この墓には、赤馬主という人物が葬られているという。赤馬主とは、文瑛姓4世の大城師番(1671~1750)で、八重山を代表する民謡「赤馬節」の作者とされる。墓の築造沿革に関する記録はないが、伝承では師番が飼育していた名馬・赤馬の評判が琉球王府に伝わり、赤馬は国王に献上されたが、王府の調教師に従わなかったため、国王の不興をかうところとなり、師番は王府へ召喚されることとなった。死を覚悟した師番は出発前に自らの墓を築いたとされ、それが当墓といわれる。旧暦7月7日には、文瑛姓の一門によって供養祭祀が執り行われている。